

五家荘の名前に隠された秘密

平成22年9月2日教頭講話

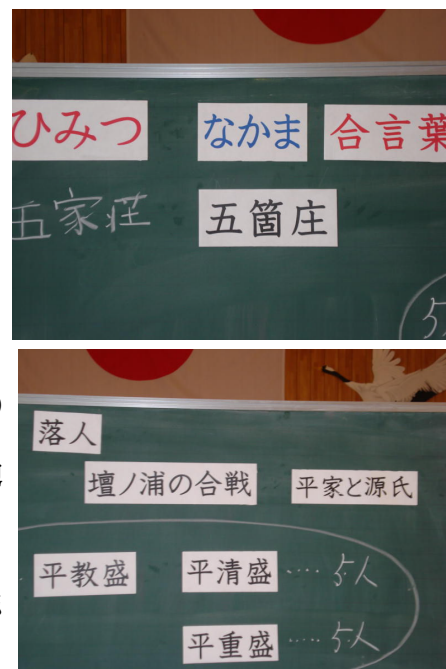
みなさんは五家荘という名前に隠された秘密のお話があることを知っていますか。

実は、全国の平家の落人が住んでいる殆どの村にはすべて「五箇」がついているのです。例えば、島根県隠岐島の五箇村、京都府船井郡の五ヶ荘村、京都府峰山町の五箇村、滋賀県神崎郡の五箇荘町、岐阜県の五箇谷、岐阜県度会郡の五ヶ所町、福井県大野市の五箇村、富山県東礪郡の五箇山といったぐあいです。



この私たちが住んでいる五家荘も、むかしの室町時代から江戸時代までは「五箇庄」と書いていたそうですが、いつの間にか五家荘に変わったようです。

では日本全国に散った平家の落人（残党）は、なぜ「五箇」の名にこだわったのでしょうか。その理由は、平家で一番活躍した人たちに関係があるようです。平清盛の兄弟は「五」人でした。清盛の子どもである重盛の兄弟もまた「五」人。清盛の弟教盛の息子たちも「五」人で、この人たちはみんな平家の中心となって戦い、源平合戦にはそれぞれ重要な役割を果たした人物たちばかりなのです。つまり、平家一族に勢いがあり一番幸せな時を過ごしていた時に、生活の周りに数字の「五」がたくさん関係していたようです。ところが、平家がどうも源氏に負けてしまいそうだと感じた平家一族は、全国にそれぞれ散り散りに逃げる事となった時、ふたたび平家が復活（再興）するためにこ



れから住むこととなった場所には「五箇」という名前をつけることを確認し合ったのです。生き残った平家が全国に逃げて散らばったとしても「五箇」という秘密の合言葉で、仲間であることが確認できること、そしてチャンスが来た時に一致団結して立ち上がることができるよう家来（家臣）たちにそのことを伝えたのです。それを聞いた家来（家臣）たちは、みんな全国の人里離れた隠れ里にじっと身を潜め、その場所に「五箇」の名をつけました。近い将来に再び平家の仲間が一致団結して立ち上がる時が必ずくると信じて、そのチャンスをずっと待っていたのです。たとえ自分たちの代には復活（再興）はかなわなかったとしても、必ず子どもや孫の時代に各地の「五箇」という合い言葉でつながりを持ちつづけた仲間たちが連絡を取り合って、きっと平家の復活（再興）を実現してくれると信じていました。しかし、天下に栄華を極めた平家一族の復活の夢は、とうとう実現することもなく地名だけが今に残っているのです。

